

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	熊本大学(京町)附属学校国際棟(1)	階数	地上3階、地下0階	<div>外観パフォーマンス</div> <div>外観図の貼り付けは、</div> <div>【外観図】シートへ貼り付けしてください。</div>
建設地	熊本市中央区京町本丁79番	構造	RC造	
用途地域等	2用途以上	平均居住人員	320 人	
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年	
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026/ 予定	評価の実施日	2024年7月19日	
敷地面積	51,548 m ²	作成者	株式会社教育施設研究所	
建築面積	846 m ²	確認日	2024年9月12日	
延床面積	2,530 m ²	確認者	株式会社教育施設研究所	

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

環境品質 Q

100

50

0

3.0

1.5

BEE=1.0

0.5

0

50

100

環境負荷 L

S

A

B+

B-

C

44

1.5

33

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

BEE = 1.5

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

73%

3 熊本県重点評価結果

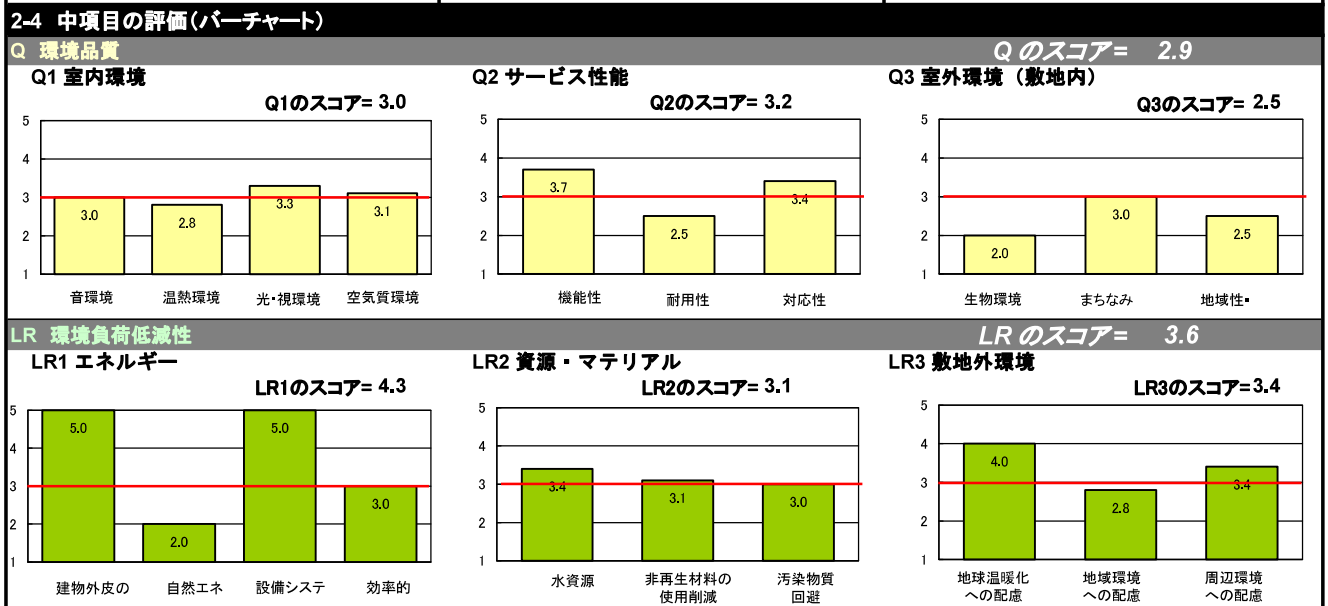
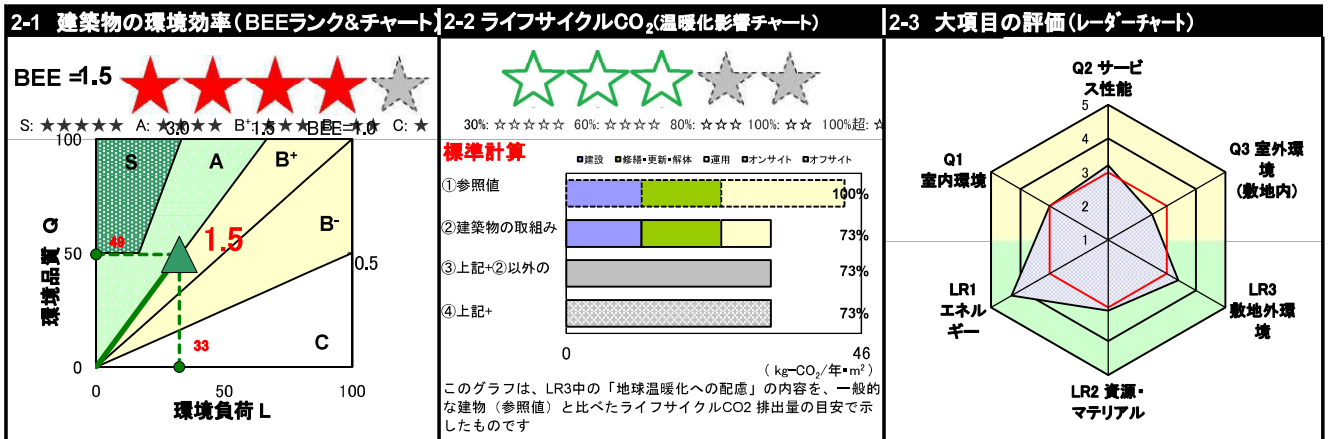
重点事項総合評価		評価点												
		82												
<div>重点事項1 温室効果ガス排出量削減の推進</div> <div>重点事項2 安全安心で暮らしやすい社会の実現</div> <div>重点事項3 県の地域資源の有効活用と保全</div> <div>重点事項4 循環型社会の実現</div>														
評価点		熊本県重点評価基準												
88.7		<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
68.7														
85.7														
79.5														
※評価点は、100点以上が推奨です。														

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	熊本大学(京町)附属学校国際棟(仮称)	階数	地上3階、地下0階	
建設地	熊本市中央区京町本丁79番	構造	RC造	
用途地域等	2用途以上	平均居住人員	320 人	
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026/ 予定	評価の実施日	2024年7月19日	
敷地面積	51,548 m ²	作成者	株式会社教育施設研究所	
建築面積	846 m ²	確認日	2024年9月12日	
延床面積	2,530 m ²	確認者	株式会社教育施設研究所	

外観/パフォーマンス

図を貼り付けるときは

シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.40		-	3.0	
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1		開口部遮音性能		3.0	0.30	-	-		
2		界壁遮音性能		3.0	0.30	-	-		
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	-	-		
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.8	0.35	-	-	2.8	
2.1 室温制御				2.6	0.50	-	-		
1		室温		3.0	0.60	-	-		
2		外皮性能		2.0	0.40	-	-		
3		ゾーン別制御性		-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-	3.3	
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-		
1		昼光率		5.0	0.60	-	-		
2		方位別開口		-	-	-	-		
3		昼光利用設備		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1		昼光制御		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.1	0.25	-	-	3.1	
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1		化学汚染物質		3.0	1.00	-	-		
4.2 換気				2.6	0.30	-	-		
1		換気量		3.0	0.33	-	-		
2		自然換気性能		4.0	0.33	-	-		
3		取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1		CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-		
2		喫煙の制御		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2	
1 機能性				3.7	0.40	-	-	3.7	
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-		
1		広さ・収納性		-	-	-	-		
2		高度情報通信設備対応		-	-	-	-		
3		バリアフリー計画		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.5	0.30	-	-		
1		広さ感・景観		3.0	0.50	-	-		
2		リフレッシュスペース		-	-	-	-		
3		内装計画		4.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1		維持管理に配慮した設計		4.0	0.50	-	-		
2		維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.5	0.30	-	-	2.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.2	0.50	-	-		
1		耐震性(建物のこわれにくさ)		2.0	0.80	-	-		
2		免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-		
1		躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-		
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
4		空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-		
6		主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-		
1		空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
2		給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-		
3		電気設備		3.0	0.20	-	-		
4		機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
5		通信・情報設備		2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高4.0m	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		比率:0.162	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.7	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.40	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、節水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメントB種	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能:LGS下地	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:85%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1 騒音			-	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.60	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	0.20	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.33	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害ガイドライン過半を満足、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	(建物・敷地全体の環境に配慮したことに関するコンセプト) 敷地内の既存建物と極力離隔した建物配置とし、採光通風に配慮した設計とした。	
Q1 室内環境	(遮音、温度、湿度、採光、換気など室内環境に配慮した事項) 居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。 普通教室のガラスはLow-E複層ガラスを採用した。 使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。	
Q2 サービス性能	(内外装や建物の維持管理などに配慮した事項) 維持管理しやすいよう、床はビニールシートを採用。 階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備える。	
Q3 室外環境 (敷地内)	(緑地、景観、機器の排熱などに配慮した事項) 外壁材(複層仕上塗材RE)の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図る。	
LR1 エネルギー	(太陽光、太陽熱、高効率機器の採用などに配慮した事項) 日射遮蔽に配慮し、開口部上部に庇を計画した。	
LR2 資源・マテリアル	(リサイクル材の使用、雨水の利用などに配慮した事項) 極力リサイクル材の使用する計画とした。	
LR3 敷地外環境	(建物による周辺地域への影響に配慮した事項) 周辺民家への騒音やプライバシーに配慮し、民家側外壁面の開口部は最小限とした。	
その他	特になし	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	熊本大学(京町)附属学校国際棟(仮称)等	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		82	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点	
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				88.7	0.40	35.48	
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05				
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05				
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05				
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15				
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.20				
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30				
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10				
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10				
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				68.7	0.20	13.74	
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25				
Q2-2.1.1	耐震性	2.0	0.25				
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15				
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20				
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15				
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14	
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29				
LR2-1.1	節水	4.0	0.43				
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29				
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00				
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90	
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30				
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30				
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10				
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15				
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15				

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。
※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数